

第35回 東京外環トンネル施工等検討委員会

施工計画及び地域の安全・安心を高める取り組みを踏まえた工事の状況等について

＜ 東 名 J C T 地 中 拡 幅 （ 南 行 ） ＞

令和8年7月22日

国土交通省 関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所
東日本高速道路株式会社関東支社 東京外環工事事務所
中日本高速道路株式会社東京支社 東京工事事務所

目

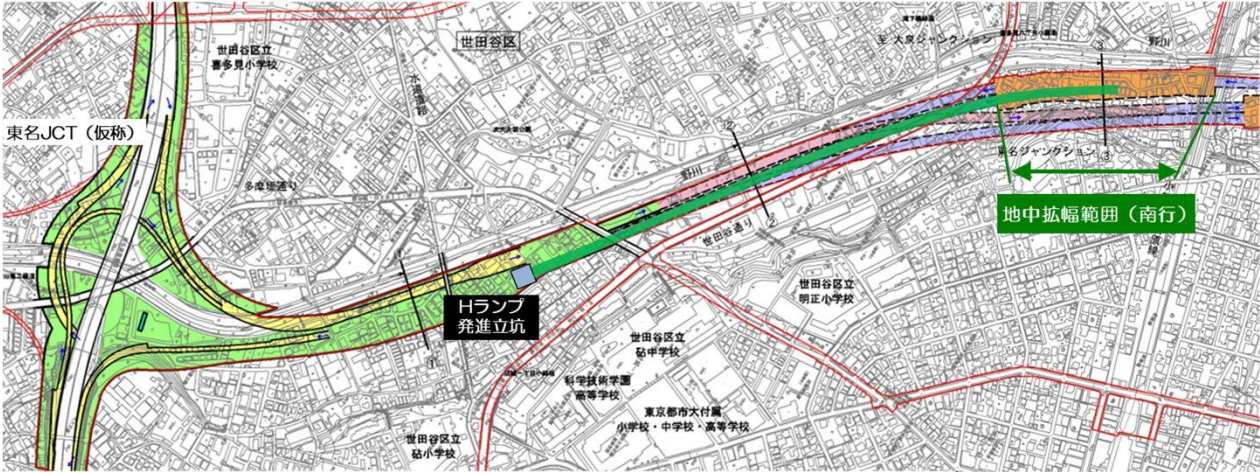
次

1. 工事の進捗状況	1
1. 1 東名JCT 地中拡幅（南行）工事の概要	1
1. 2 工事進捗状況	1
1. 3 坑内における施工管理項目	2
1. 4 部分拡幅部の施工状況	3～4
1. 5 標準拡幅部の施工状況	5～6
2. 地中拡幅工事（南行）における工事管理体制	7～8
3. 地域の安全・安心を高める取り組みの対応状況	9
3. 1 振動・騒音のモニタリングの強化	10～14
3. 2 地表面変状の確認	15～18
3. 3 地域住民の方への情報提供	19～20

1. 工事の進捗状況

1. 1 東名JCT 地中拡幅（南行）工事の概要

- 工事名称 : 東京外かく環状道路 東名ジャンクションランプ
シールドトンネル・地中拡幅（南行）工事
- 発注者 : 東日本高速道路(株) 関東支社
- 施工者 : 安藤・間・西松・日本国土特定建設工事共同
企業体
- 工事内容 : 地中拡幅
標準拡幅部 延長 約153m、
部分拡幅部 延長 約68m
合計 約221m
- 工事箇所 : 東京都世田谷区大蔵～成城



1. 2 工事進捗状況（令和8年6月30日現在）

東名JCT 地中拡幅（南行）工事において標準拡幅部では下半中央部掘削を実施中である。
また、部分拡幅部ではパイプルーフを施工中である。

標準拡幅部		部分拡幅部	
STEP3：下半中央部掘削	STEP4：下半側部掘削・ 下半拡幅セグメント組立	STEP3：パイプルーフ発 進基地掘削	STEP4：パイプルーフ施 工
- 地中拡幅部の下側（下半）を掘削します。天端部（下半中央部の上部）はルーフセグメントを設置して、地山を支えます。 - 下半掘削は、シールドトンネルの変位を防止するため、下半中央部を先行して全区間掘削します。	- 本線シールドトンネルとランプシールドトンネルの下側を2リング分（2.4m）掘削し、下半拡幅セグメントを2リング組み立て、繰り返し施工します。 - セグメントと掘削地山の隙間は裏込材で充填します。	- 部分拡幅部の地山を防護するパイプルーフを施工するため、発進基地を設置します。 - 発進基地は小さく分割し、位置をずらして設置します。小さく分割することで、本線シールドトンネルに作用する応力を小さくすることができます。	- パイプルーフは発進基地毎に分割して作業し、部分拡幅部全長に亘って施工します。 - 施工後はパイプルーフ内及び発進基地を裏込材で充填します。



部分拡幅部坑内



標準拡幅部坑内

1. 3 坑内における施工管理項目

第30回東京外環トンネル施工等検討委員会で確認した地中拡幅工事の坑内における施工管理項目のうち、現在の施工ステップで計測対象となる赤枠に示すデータを次ページ以降に示す。

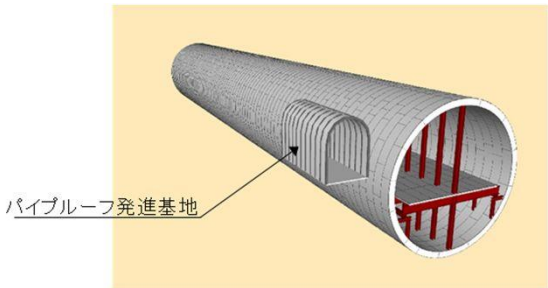
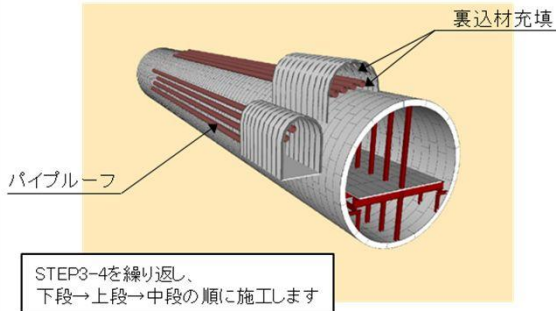
地中拡幅工事の坑内における施工管理項目

管理項目	計測内容	計測方法	対象となる事象	結果の活用
変位計測	内空変位計測	手動計測 【光波測距儀・内空変位計】	・測点間距離変化	・周辺地山の安定性検討 ・支保部材の効果検討
	天端沈下計測	手動計測 【光波測距儀・水準測量】	・天端の沈下	・天端周辺地山の安定性検討
地山挙動に関する計測	地中変位計測	多点変位計 【常時計測】	・周辺地山の半径方向変位	・緩み領域の把握
支保工、覆工性能に関する計測	吹付けコンクリート応力計測	コンクリート有効応力計による軸力・曲げ応力測定 【常時計測】	・吹付けコンクリート応力	・吹付けコンクリート厚、強度の妥当性検討 ・吹付けコンクリートと鋼製支保工との荷重分担検討
	鋼製支保工応力計測	歪計による軸力・曲げ応力測定 【常時計測】	・鋼製支保工の応力	・鋼製支保工の寸法、建込みピッチの妥当性検討 ・吹付けコンクリートと鋼製支保工との荷重分担検討

※支保工、覆工性能に関する計測は、標準拡幅部の上半拡幅施工時を対象に計測を実施

1. 4 部分拡幅部の施工状況

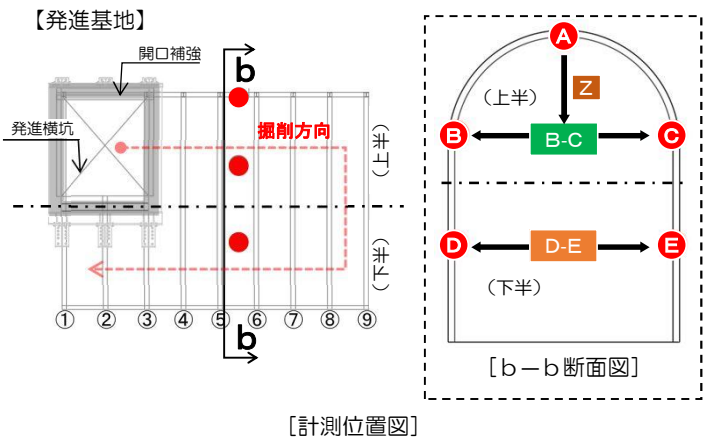
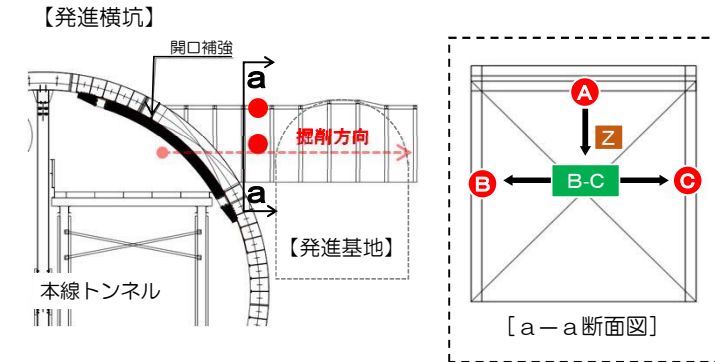
部分拡幅部の施工のうちパイプルーフ発進基地（下段）の掘削が完了し、パイプルーフ（下段）を施工中。
トンネル標準示方書等の技術基準や工学的特性等を踏まえて定めた管理項目に対し、地山やトンネルの安定性を確保しながら施工できていることを確認した。
（１）施工状況および切羽状況

STEP3：パイプルーフ発進基地掘削	掘削状況	STEP4：パイプルーフ施工
		
発進基地横坑切羽状況	発進基地上半切羽状況	パイプルーフ施工状況
		
【切羽状況】 - 切羽は全体的に黒灰色の北多摩層であり、亀裂、開口はない - 湧水は滲水程度であり切羽は湿った状態であるが水分による劣化は見られない - 施工範囲全体において切羽の状態に変化は無く、パイプルーフ発進基地施工箇所では概ね均一な北多摩層であることが確認された - 局所的に5cm程度の火山灰の薄層が確認されたが固結しており、湧水は滲水程度で、滞水は確認されなかった		

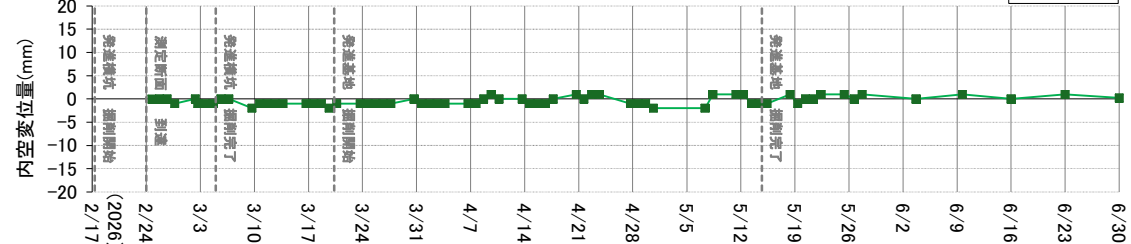
(2) 部分拡幅部における施工管理

■パイプルーフ発進基地内空変位、天端沈下

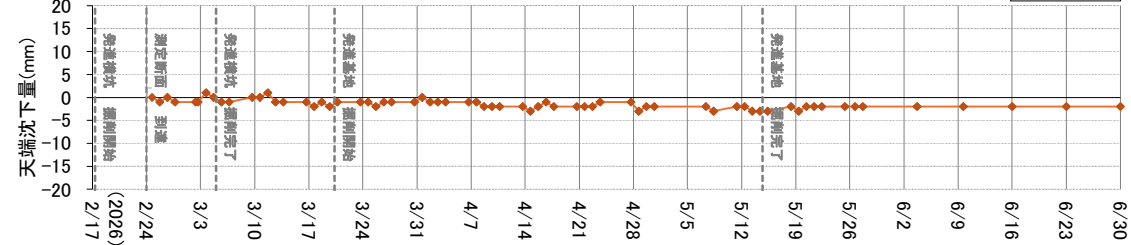
内空変位量および天端沈下量について、施工管理計画に基づき実施し、地山の安定性およびトンネルの安定性を確保しながら施工できていることを確認し、掘削完了後に変位が収束していることを確認した。



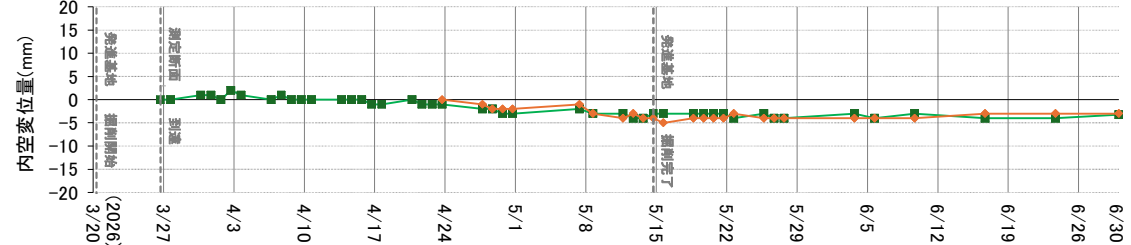
【発進横坑】内空変位 経時データ



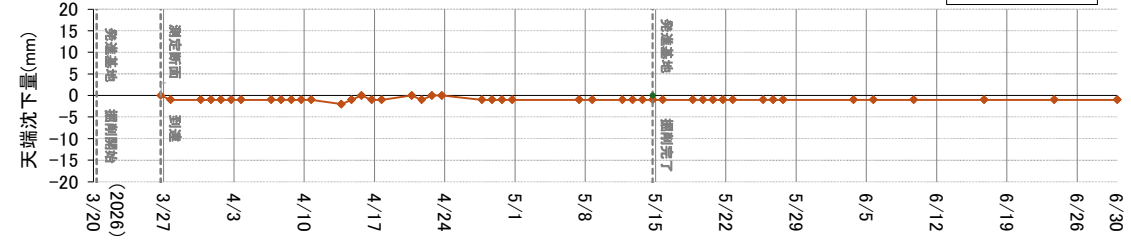
【発進横坑】天端沈下 経時データ



【発進基地】内空変位 経時データ



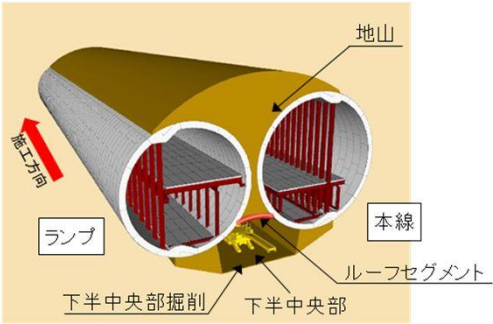
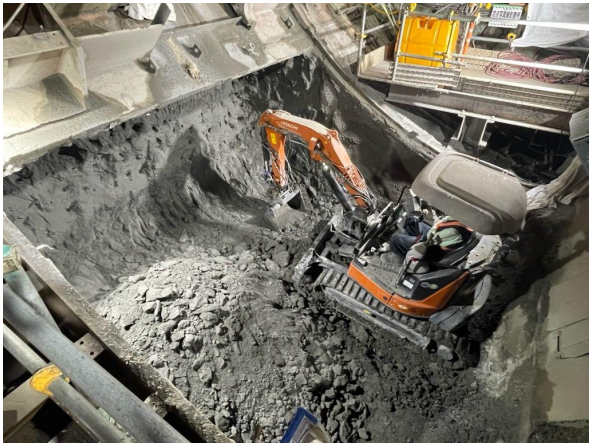
【発進基地】天端沈下 経時データ



※Zはマイナスが沈下方向を示す

1. 5 標準拡幅部の施工状況

標準拡幅部の施工のうち、Hランプシールドマシンのスキンプレート撤去が完了し、下半中央部の地山掘削を実施中。
トンネル標準示方書等の技術基準や工学的特性等を踏まえて定めた管理項目に対し、地山やトンネルの安定性を確保しながら施工できていることを確認した。
(1) 施工状況および切羽状況

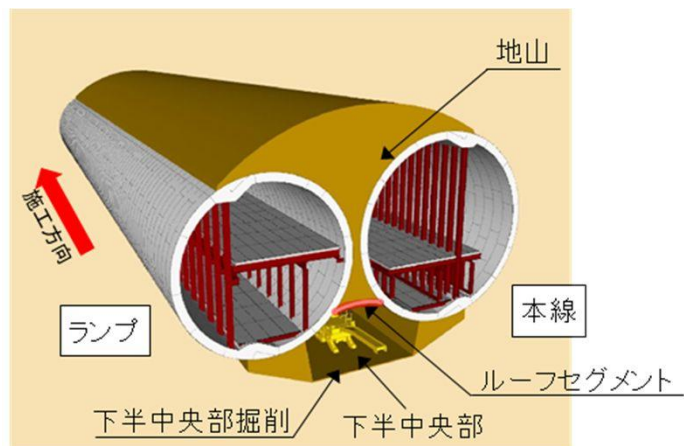
STEP3：下半中央部掘削	スキンプレート撤去状況
	
掘削状況	切羽状況
	
【切羽状況】 • 切羽全体が黒灰色の北多摩層で、亀裂、開口はない • 湧水は滲水程度であり切羽は湿った状態であるが水分による劣化は見られない • 今回報告期間において切羽の状態に変化は無く、均一な北多摩層であることが確認された	

(2) 標準拡幅部における施工管理

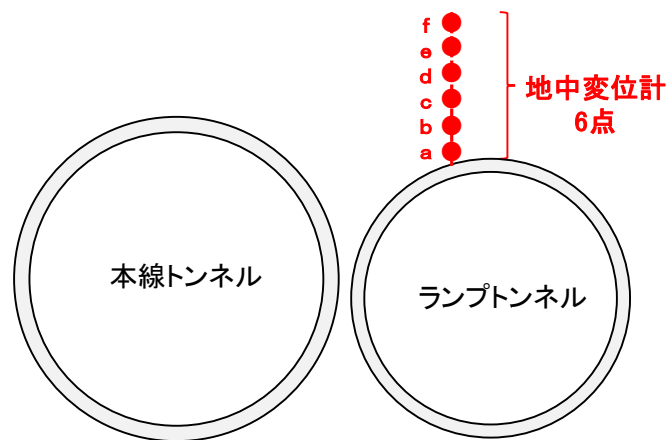
■地中変位計測

標準拡幅部においては多点式地中変位計により地山の変位を計測している。

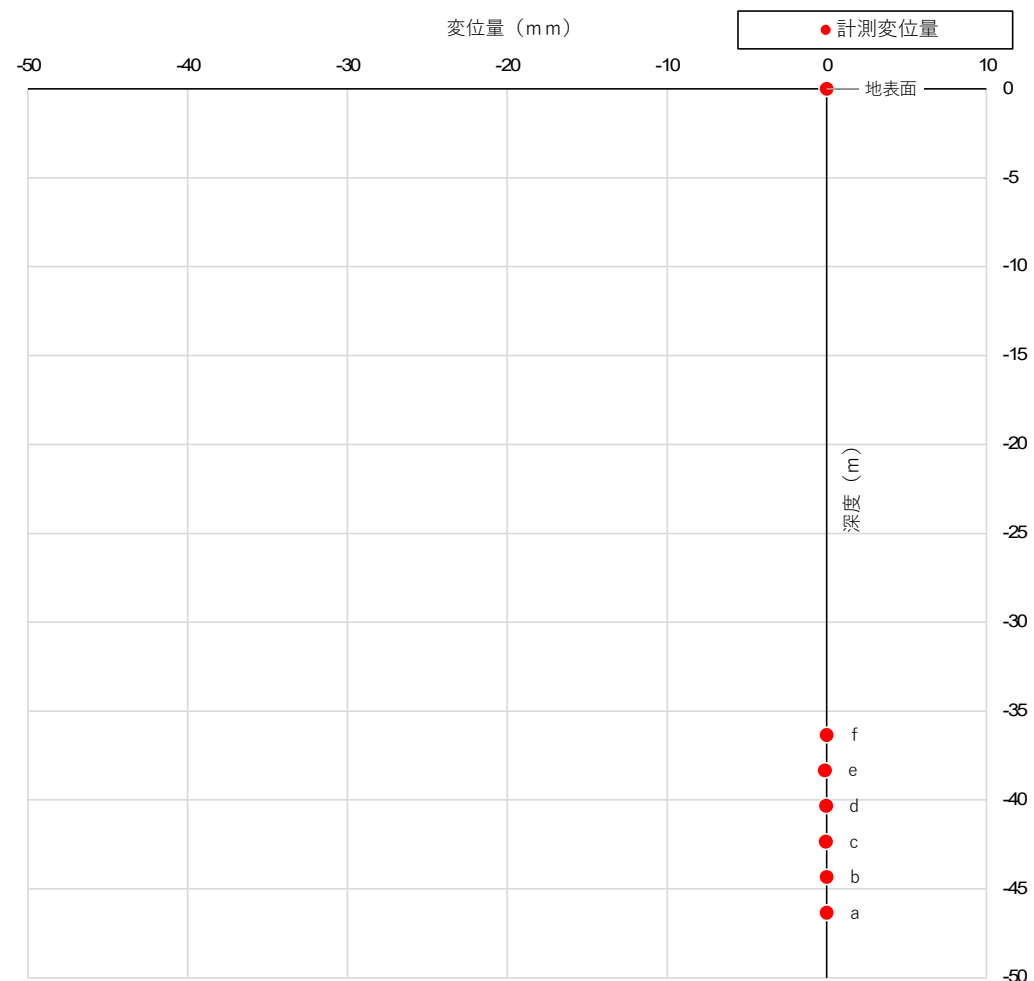
多点式地中変位計による計測開始日（令和8年5月22日）を初期値とし、令和8年6月30日時点での最大値を下記に示す。



[現在の施工ステップ図]



[地中変位計 設置断面図]



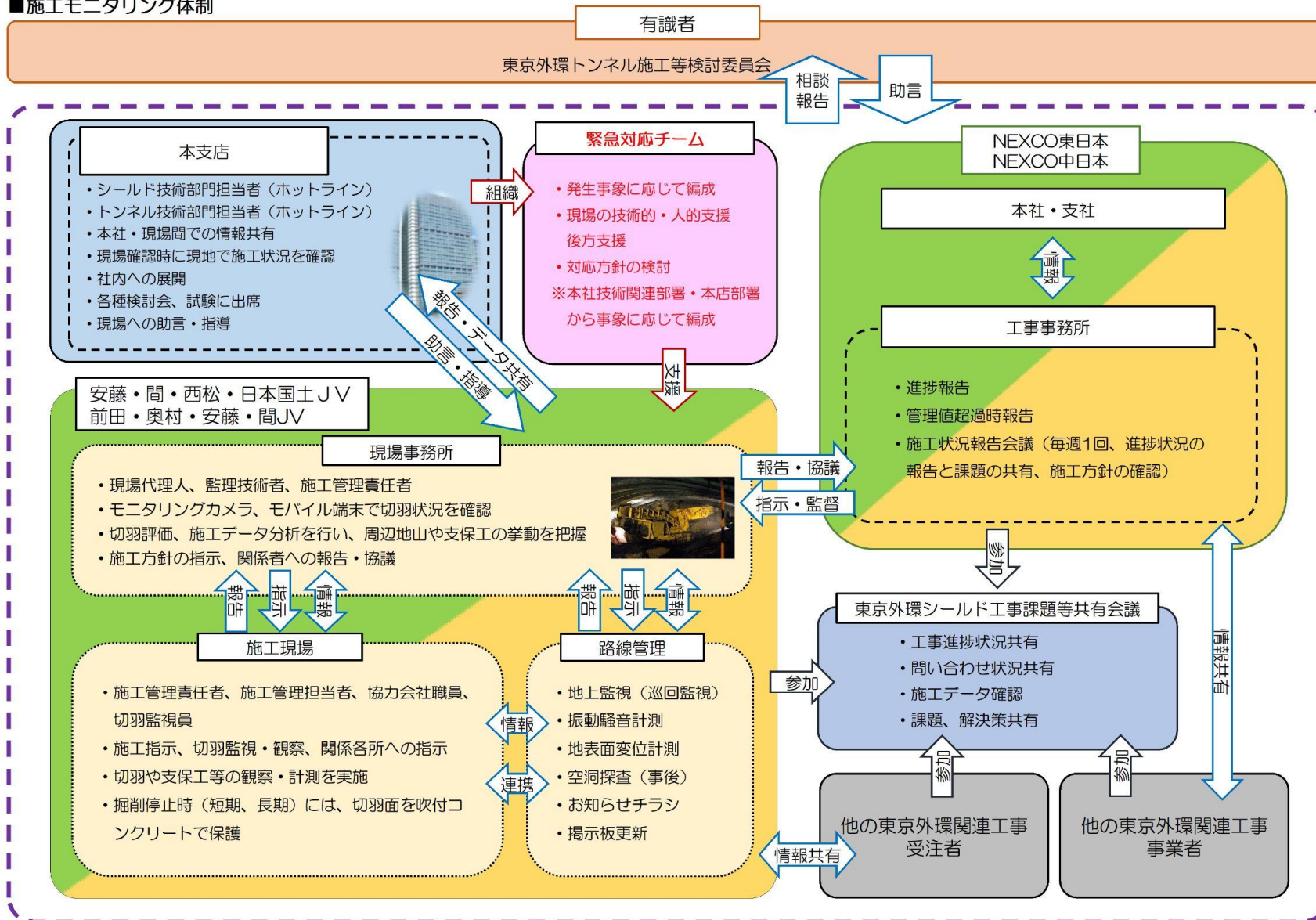
※マイナスが沈下方向を示す

2. 地中拡幅工事（南行）における工事管理体制

第30回東京外環トンネル施工等検討委員会で確認した施工管理計画に基づき、地表面変位や地下水位を確認しながら施工を進めた。

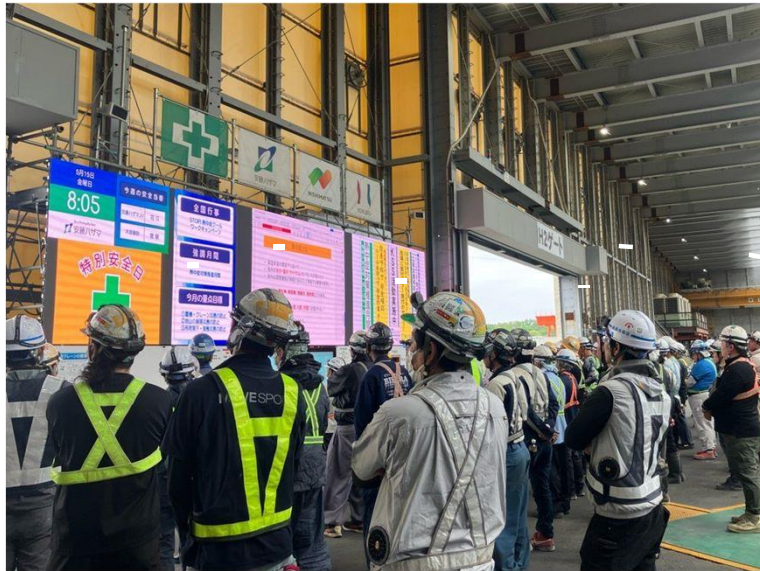
また、受注者内部の施工状況のモニタリング体制を強化し、平時からの受発注者間の情報共有体制を構築するとともに、関係者への日々の作業状況の定時報告等の情報共有を確実に実施している。緊急時には同様に速やかに情報共有がなされる体制を構築している。

■施工モニタリング体制

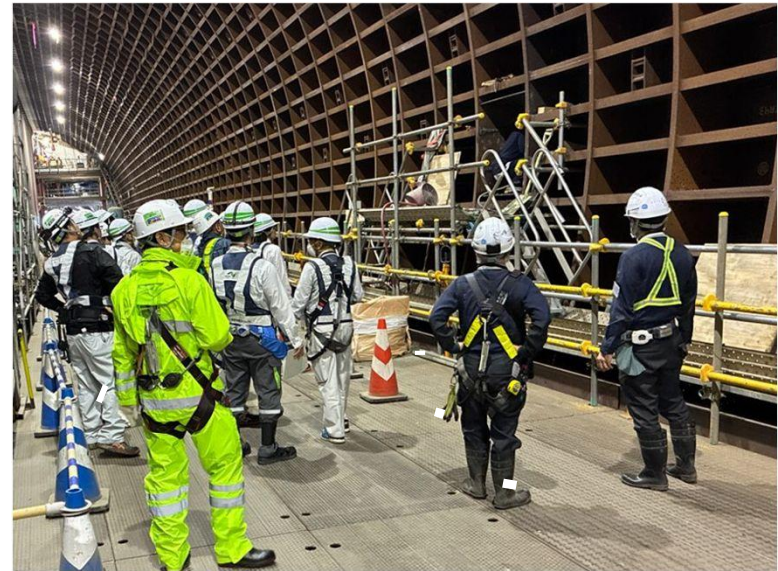


■受発注者間合同安全点検などの状況

受注者の安全大会



受発注者間合同の安全点検



施工状況報告会議



切羽監視員による監視状況



3. 地域の安全・安心を高める取り組みの対応状況

第30回東京外環トンネル施工等検討委員会における地域の安全・安心を高める取り組みとして以下を確認した。

振動・騒音対策や地盤変状の確認、地域住民の方への情報提供、緊急時の運用について、地中拡幅工事に伴う地域の安全・安心を高める取り組みとして、陥没地域で実施した説明会や相談窓口等においていただいたご意見、沿線区市よりいただいた要請書等を参考に次のとおりとりまとめた。引き続き、沿線住民からの問い合わせ等に対し、適切に対応するとともに、不安を取り除くことに努めていく。



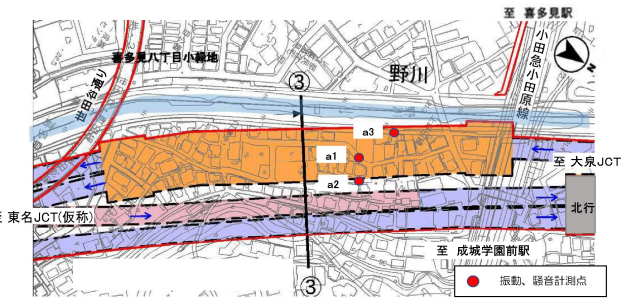
※1・2：設置箇所・手法は自治体と調整

3. 1 振動・騒音のモニタリングの強化

概ね1か月間隔で施工箇所直上付近の公共用地において振動・騒音測定を実施することとしており、下図に示す箇所で測定を行った。結果については掲示板やHPで公表している。
また、施工箇所直上付近の位置で簡易計測器を用いた振動・騒音測定を実施し、電光掲示板で測定値を表示した。
令和8年3月1日から令和8年6月30日において、地中拡幅施工に関する振動・騒音のお問合せは0件であった。

【振動・騒音測定】

測定内容	振動レベル(鉛直Z方向)、騒音レベル、低周波レベル
測定頻度	1回／月程度
測定時間	昼間施工中、夜間施工中、昼間施工休止中、夜間施工休止中
測定位置	施工箇所直上付近と調査範囲端部付近の公共用地3測点 低周波は直上付近のみ1測点
公表値	(速報値) 振動レベルL10(施工箇所直上付近の1点) 騒音レベルLA5(施工箇所直上付近の1点) (確定値) 振動レベルL10 騒音レベルLA5 低周波レベルL50、LG5 ※特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値
掲示方法	(速報値) 現地付近の掲示板等に掲示 (確定値) ホームページと現地付近の掲示板等に掲示



測定位置(測定日: 令和8年3月23日(月))

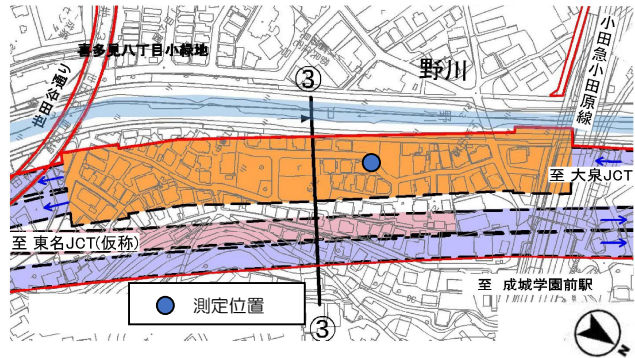


測定状況

【簡易測定】

測定内容	振動レベル(鉛直Z方向)、騒音レベル
測定頻度	地中拡幅施工日
測定時間	24時間
測定位置	施工箇所直上付近の公共用地
公表値	瞬間値 振動レベル 瞬間値 騒音レベル
掲示方法	電光掲示板(測定位置)で瞬間値を自動掲示 施工位置に合わせて設置位置を移動

測定位置の例

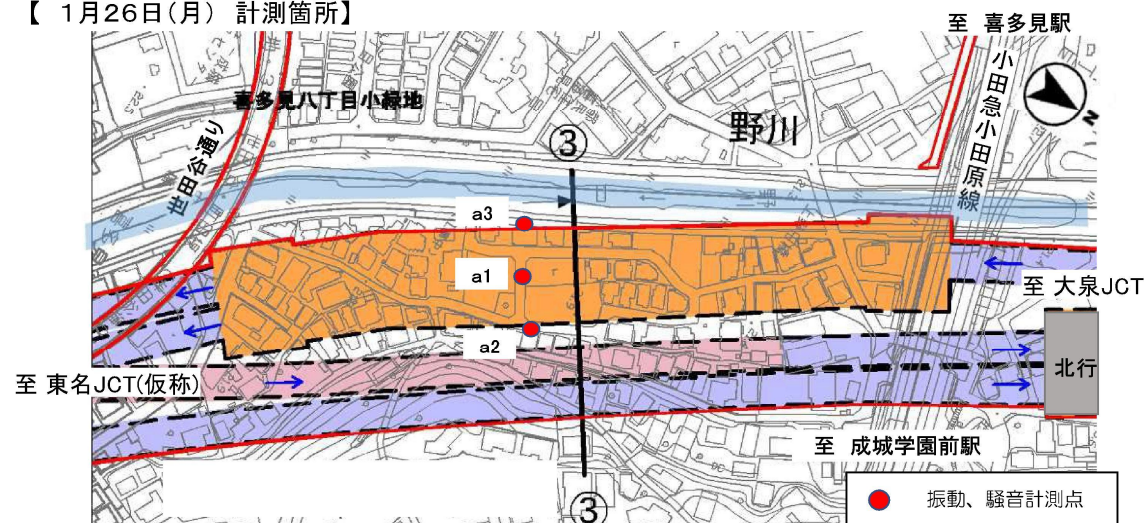


測定状況

令和8年1月26日(月) 10:00～翌4:00振動・騒音測定結果

振動 : a1、a2で休止中と施工中で振動レベルの上昇傾向が確認されたが、規制基準値以内であった。
騒音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
低周波音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で低周波レベル L_{G5} の上昇傾向が確認されたが、内部支保工設置のその他期間においては明確な差異は確認されなかった。

【1月26日(月) 計測箇所】



【1月26日(月) 10:00～翌4:00 振動・騒音計測結果(確定値)】

	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)
振動レベル $L_{10}(\text{dB})$	31	43	31	30	45	31	32	41	30
騒音レベル $L_{A5}(\text{dB})$	58	60	50	57	62	54	56	59	52
低周波レベル $L_{50}(\text{dB})$	75	73	71						
低周波レベル $L_{G5}(\text{dB})$	69	84	64						

* 振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。

計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。

* 上表は、特異値(例: 大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。

* 昼・・・19時まで 夜・・・19時以降

【振動レベル L_{10} 】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値を L_{10} と表します。

【騒音レベル L_{A5} 】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値を L_{A5} と表します。

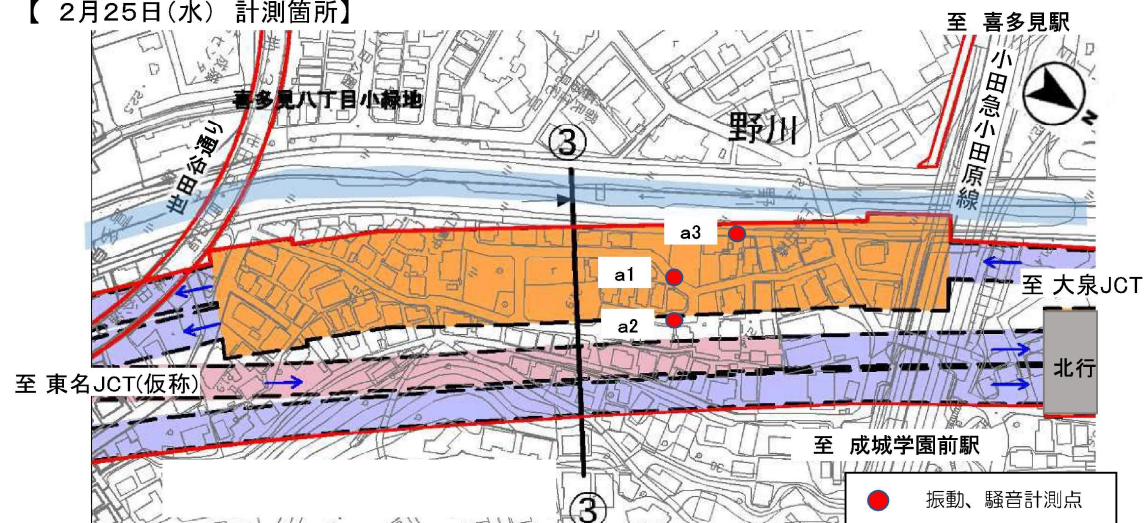
【低周波レベル L_{50} 】 1～80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値を L_{50} と表します。

【低周波レベル L_{G5} 】 1～20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値を L_{G5} と表します。

令和8年2月25日（水） 10:00～翌4:00 振動・騒音測定結果

振動 : a1、a2、a3で休止中と施工中で振動レベルの上昇傾向が確認されたが、規制基準値以内であった。
騒音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
低周波音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されなかった。

【 2月25日（水） 計測箇所】



【 2月25日（水） 10:00～翌4:00 振動・騒音計測結果(確定値)】

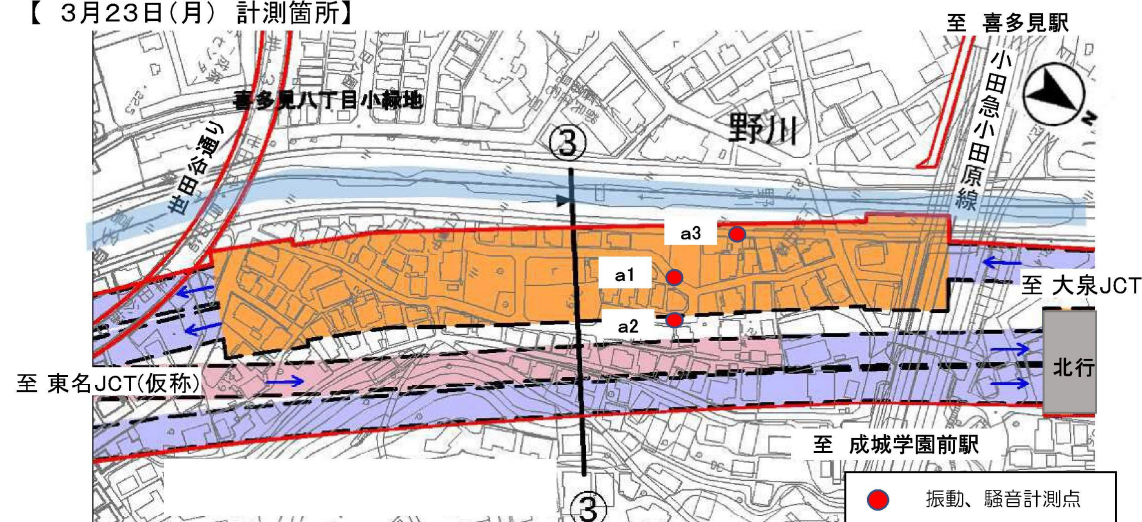
	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)
振動レベル L ₁₀ (dB)	30	48	32	32	50	28	32	42	30
騒音レベル L _{A5} (dB)	61	62	55	61	62	58	56	62	54
低周波レベル L ₅₀ (dB)	83	79	77						
低周波レベル L _{G5} (dB)	78	79	72						

* 振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。
計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。
* 上表は、特異値(例: 大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。
* 昼・・・19時まで 夜・・・19時以降
【振動レベルL₁₀】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値をL₁₀と表します。
【騒音レベルL_{A5}】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{A5}と表します。
【低周波レベルL₅₀】 1～80Hzの周波数範囲内にある時間測定したとき、全測定値の中央値をL₅₀と表します。
【低周波レベルL_{G5}】 1～20Hzの周波数範囲内にある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{G5}と表します。

令和8年3月23日（月） 10:00～翌4:00 振動・騒音測定結果

振動 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
騒音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
低周波音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されなかった。

【 3月23日(月) 計測箇所】



【 3月23日(月) 10:00～翌4:00 振動・騒音計測結果(確定値)】

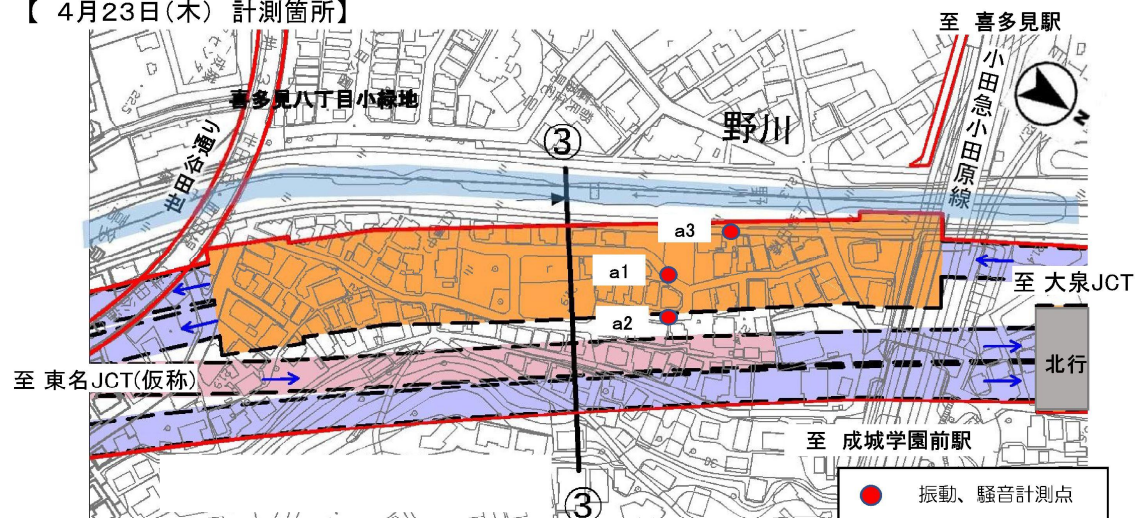
	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)
振動レベル L ₁₀ (dB)	35	38	31	34	38	31	34	39	33
騒音レベル L _{A5} (dB)	56	61	59	56	61	62	55	59	60
低周波レベル L ₅₀ (dB)	84	72	83						
低周波レベル L _{G5} (dB)	74	81	78						

* 振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。
計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。
* 上表は、特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。
* 昼・・・19時まで 夜・・・19時以降
【振動レベルL₁₀】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値をL₁₀と表します。
【騒音レベルL_{A5}】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{A5}と表します。
【低周波レベルL₅₀】 1～80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値をL₅₀と表します。
【低周波レベルL_{G5}】 1～20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{G5}と表します。

令和8年4月23日（木） 10:00～翌4:00 振動・騒音測定結果

振動 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
騒音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されず、規制基準値以内であった。
低周波音 : 標準拡幅工事の休止中と施工中で明確な差異は確認されなかった。

【 4月23日(木) 計測箇所】



【 4月23日(木) 10:00～翌4:00 振動・騒音計測結果(確定値)】

	a1			a2			a3		
	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)	休止中 最大	施工中 最大(昼)	施工中 最大(夜)
振動レベル L ₁₀ (dB)	37	32	37	32	32	32	35	36	31
騒音レベル L _{A5} (dB)	58	58	56	60	61	57	58	61	57
低周波レベル L ₅₀ (dB)	75	71	77						
低周波レベル L _{G5} (dB)	69	78	71						

* 振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定は施工箇所直上付近で実施しています。
計測点は施工箇所直上および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。
* 上表は、特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。
* 昼・・・19時まで 夜・・・19時以降
【振動レベルL₁₀】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から10%目の値をL₁₀と表します。
【騒音レベルL_{A5}】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{A5}と表します。
【低周波レベルL₅₀】 1～80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値をL₅₀と表します。
【低周波レベルL_{G5}】 1～20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値をL_{G5}と表します。

3. 2 地表面変状の確認

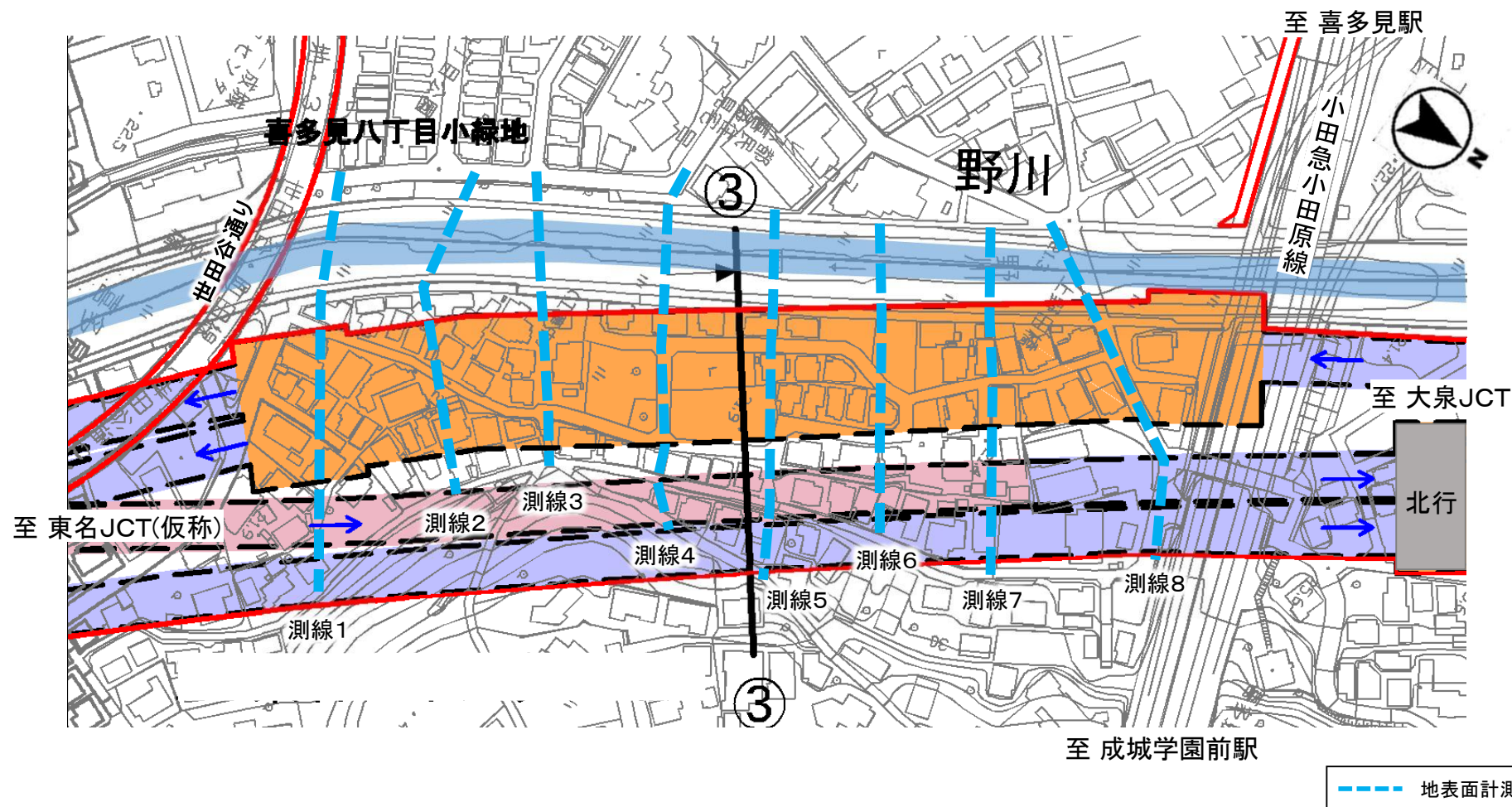
①地表面計測

交差する公道上において水準測量により地表面変位を地中拡幅施工中は1回/日、施工完了後は1回/月の頻度で変位が収束するまで計測を実施する計画である。

測量結果については、地表面最大傾斜角、鉛直変位をホームページや現場付近に設置している掲示板にて1回/週の頻度で定期的に公表している。

(野川の遊歩道部における計測値は、野川河川護岸の構造が原因と考えられる特異値のため除いている。)

今回の作業期間における作業前後の地表面最大傾斜角は1000分の1rad以下であることを確認した。



【地表面計測結果（野川遊歩道の計測値は野川河川護岸の構造が原因と考えられる特異値として除外）】

測線	基準値 計測日	最大傾斜角 (rad)																
		3月6日	3月13日	3月20日	3月27日	4月3日	4月10日	4月17日	4月24日	5月1日	5月8日	5月15日	5月22日	5月29日	6月5日	6月12日	6月19日	6月26日
1	令和7年 1月27日	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000
2	令和7年 1月27日	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000
3	令和7年 1月27日	0.3/1000	0.3/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.3/1000	0.2/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.2/1000
4	令和7年 1月27日	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.3/1000	0.1/1000	0.3/1000
5	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.2/1000	0.2/1000	0.1/1000	0.1/1000
6	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.0/1000
7	令和7年 1月27日	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000	0.0/1000
8	令和7年 1月27日	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000	0.1/1000

測線	基準値 計測日	最大鉛直変位 (mm)																
		3月6日	3月13日	3月20日	3月27日	4月3日	4月10日	4月17日	4月24日	5月1日	5月8日	5月15日	5月22日	5月29日	6月5日	6月12日	6月19日	6月26日
1	令和7年 1月27日	+1	-1	-1	-2	-1	-1	-1	-1	-1	±0	-1	±0	±0	-1	+1	±0	±0
2	令和7年 1月27日	-2	-3	-3	-3	-2	-2	-2	-3	-3	-2	-3	-2	-2	-3	-1	-2	-1
3	令和7年 1月27日	-5	-6	-5	-6	-5	-5	-6	-5	-5	-4	-5	-4	-5	-6	-3	-4	-4
4	令和7年 1月27日	-6	-7	-6	-7	-6	-6	-6	-6	-6	-6	-7	-6	-6	-8	-5	-5	-5
5	令和7年 1月27日	-4	-5	-5	-6	-5	-5	-4	-5	-5	-5	-6	-4	-6	-6	-5	-5	-3
6	令和7年 1月27日	-1	-3	-2	-3	-2	-2	-2	-2	-2	-2	-4	-2	-3	-3	-2	-2	-1
7	令和7年 1月27日	+1	-2	-1	-2	-1	-1	+1	-1	-1	-1	-3	-1	-2	-2	-1	-1	+1
8	令和7年 1月27日	+5	+3	-2	-3	-3	-3	-5	-4	-4	-6	-5	-4	-7	-5	-5	-4	-3

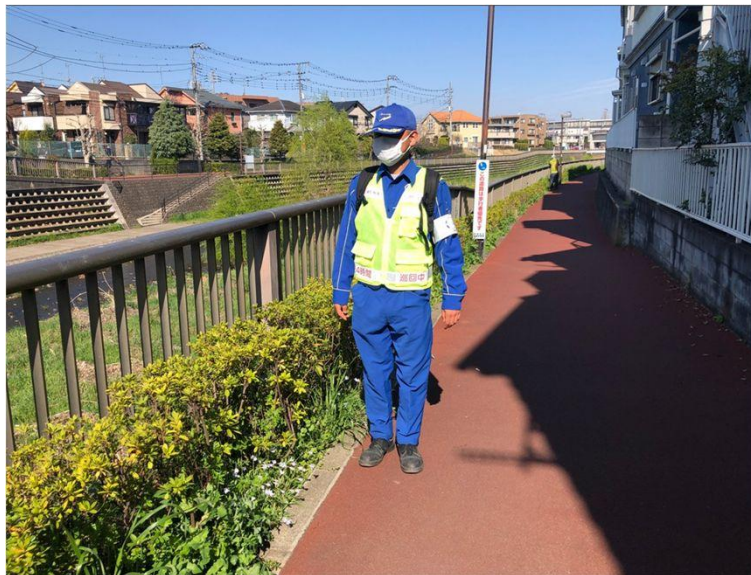
②MMS（3D点群調査）、GNSS、合成開口レーダー

地中拡幅工事を実施する前に MMS（3D点群調査）を実施済みであり、GNSSや合成開口レーダーを活用して地表面変位の傾向の把握を継続して実施した。

③巡回監視の強化

地中拡幅施工時は24時間体制で施工箇所周辺を徒歩等により巡視員が巡回を実施している。

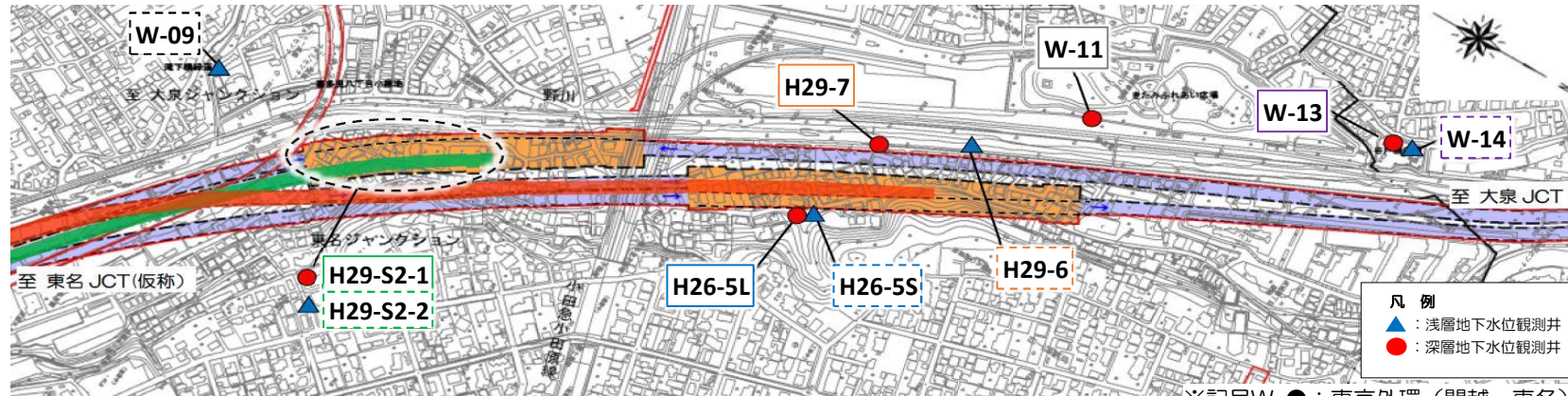
これまで施工箇所周辺において、トンネル工事に起因する地表面変状等周辺の生活環境に影響を与える事象は確認されていない。



④地中拡幅（北行、南行）全域における地下水について

地中拡幅施工箇所付近に設置した観測井戸により浅層部、深層部における地下水の圧力水頭を常時観測し、その変動を把握した。

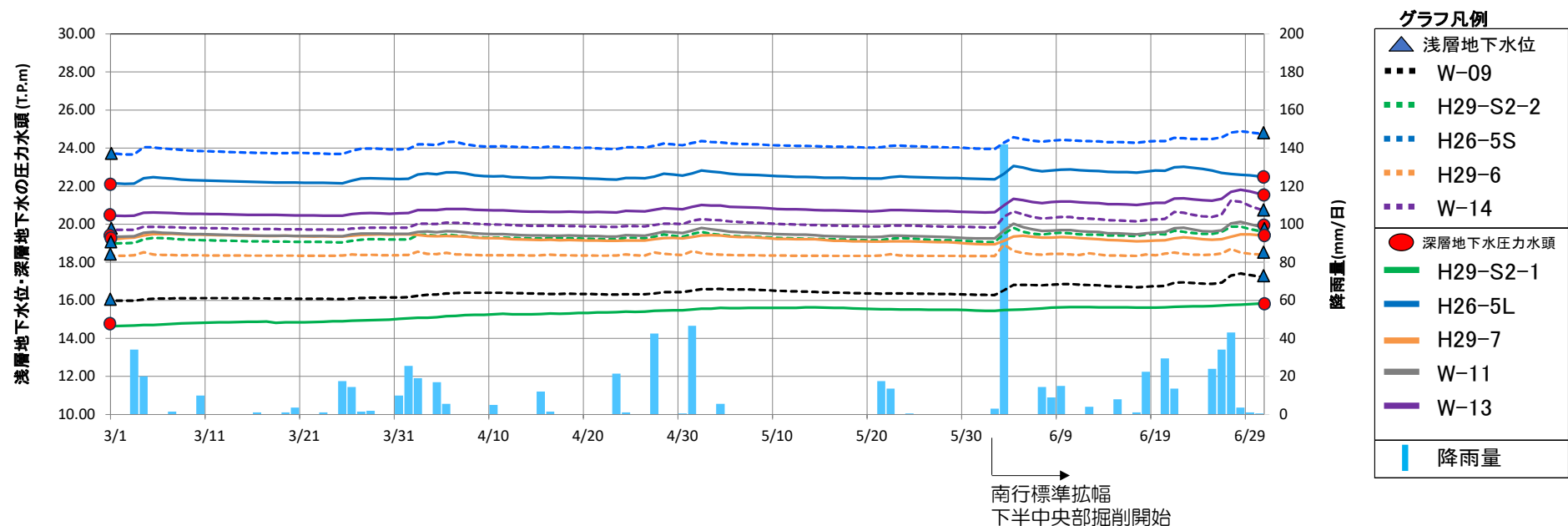
- ・H29-S2-1（深層地下水）においては降雨により圧力水頭に上昇がみられる
- ・全体的な傾向として降雨により浅層地下水位及び深層地下水圧力水頭に変動がみられる。



(---) : 民地のため概ねの位置で記載

東名JCT部における地下水位観測井 位置図

※記号W-●：東京外環（関越～東名）沿線に設置の観測井戸
※記号H-●：地中拡幅施工箇所付近に設置した観測井戸



東名JCT部における地下水位計測結果

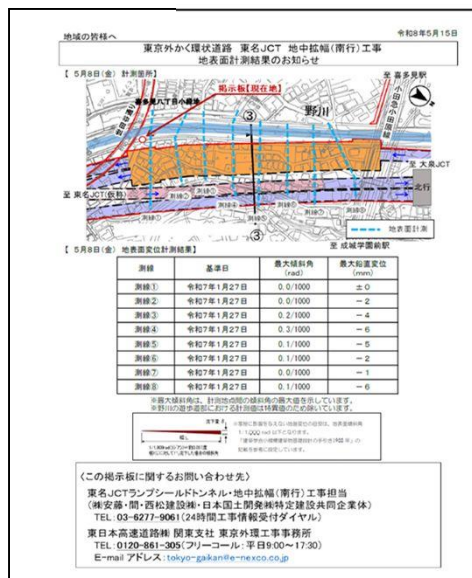
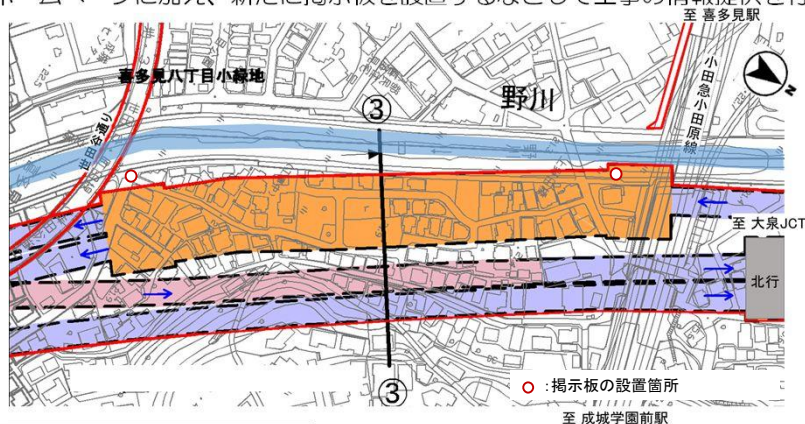
3. 3 地域住民の方への情報提供

3. 3. 1 地中拡幅工事の進捗状況、モニタリング情報の提供

地中拡幅工事において、地域住民の方への情報提供として、地中拡幅工事の進捗状況及びモニタリング情報の提供を行っている。

具体的には、①現場付近の掲示板やホームページを用いた地中拡幅工事の進捗状況や計測結果のお知らせ、②施工データの適切な公表、③地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音の値の公表を実施している。

- ① 現場付近の掲示板やホームページを用いた地中拡幅工事の進捗状況や計測結果のお知らせ
東京外環事業のホームページに加え、新たに掲示板を設置するなどして工事の情報提供を行っている。



【掲示板への掲示例】
地表面変位モニタリング結果



【ホームページ】

地中拡幅工事の進捗状況と振動・騒音等のモニタリング結果の公表



②施工データの適切な公表

東京外環トンネル施工等検討委員会において確認した後、適切に公表していく。

③地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音の値の公表

地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音モニタリングについて、計測場所に電光掲示板を配置し振動・騒音のリアルタイムな値を表示している。

【地中拡幅施工箇所直上付近での振動・騒音の値（簡易計測値）の表示】



【振動・騒音リアルタイム表示】

